

「第4回 秋の花山フェスティバル」

1. 趣旨 国立花山青少年自然の家を広く各地の方々に開放し、大自然の中でのさまざまな活動を通して施設の理解を図るとともに、家庭教育支援の一助とする。
2. 主催 宮城県「体験の風をおこそう」運動推進委員会
(事務局 独立行政法人 国立青少年教育振興機構 国立花山青少年自然の家)
3. 後援 栗原市教育委員会
4. 協力 国立岩手山青少年交流の家、国立磐梯青少年交流の家、国立那須甲子青少年自然の家、宮城県蔵王自然の家、オーエンス泉岳自然ふれあい館、栗原市産業経済部ジオパーク推進室、宮城県築館警察署、(株)ニッコトラスト、一般社団法人Hearts
5. 事業の概要
 - (1) 期日 平成30年10月27日(土)～10月28日(日)
 - (2) 参加者
 - ①参加対象 家族、一般
 - ②参加人数 1,053人(宿泊:227人 日帰り:826人)
6. 企画・運営のポイント
 - ①アンケートでの要望が多かった星座観察を実施。
 - ②体験ブースをつどいの広場の1ヶ所に集める事で、よりたくさんブースを効率よく回れるように工夫した。
 - ③当施設を利用している4団体(応援団、よさこい、サックス、大道芸)にステージイベントを依頼して実施。参加者と一体となったステージイベントが実施できた。
 - ④プレーホールにドームテントを設営し宿泊できるプログラムを追加し、宿泊者数を増やす事ができた。
 - ⑤新規広報として仙台市内の児童館へのチラシ送付、宮城県の広報誌「イベントJOY」への掲載、ぎゅぎゅっとくりはら(ラジオ番組)への出演を実施した。
7. 体験ブース
 - 【10月27日(土) 夜間】
 - ①星座観察 ②ジェルキャンドル作り(ボランティア企画) ③焼きマシュマロ
 - ④ドームテント設営・宿泊(10家族限定)
 - 【10月28日(日) 日中】
 - ①缶バッジづくり②丸太切・オリジナルコースター作り③こけしの絵付け(宮城県蔵王自然の家)④竹の箸づくり(オーエンス泉岳自然ふれあい館)⑤木工クラフト(国立那須甲子青少年自然の家)⑥ラージボール卓球体験(国立岩手山青少年交流の家)⑦スーパーボールロケット(国立磐梯青少年交流の家)⑧スカットボール⑨実感!くりはらの大地の力!(栗原市ジオパーク推進室)⑩そとどこOL⑪ネイチャーゲーム(宮城県シェアリングネイチャー協会)⑫ふわふわドーム⑬働く車(宮城県築館警察署)⑭ミニミニ動物園(一迫鈴木牧場)⑮ドラム缶ピザづくり体験⑯幼児遊び
8. ステージイベント
 - ①よさこい演舞(みちのく YOSKAOI THE!! 駆波 乱)
 - ②サックス演奏(サクソフongグループ)
 - ③大道芸(東北福祉大学ジャグリコ)
 - ④応援団パフォーマンス(東北大学応援団)

9. 日程について

	10月27日(土)		10月28日(日)
15:00	受付	6:30	宿泊者起床
16:00	宿泊者インフォメーション	7:20	朝食・部屋清掃
17:00	夕食・入浴 夜間イベント	9:30	開会式 体験ブース、ステージイベント
22:00	就寝	15:30	終了

10. 主な活動の内容



〔星座観察〕



〔ジェルキャンドル作り〕



〔大道芸〕



〔よさこい演舞〕



〔応援団パフォーマンス〕



〔オリジナルコースター作り〕

11. 成果と課題

(1) 参加者アンケート結果

満足：90% やや満足：10% やや不満：0% 不満0%

(2) 参加者の声

- ・楽しい2日間でした。20年ぶりに来る花山でしたが懐かしく感じました。
- ・とても充実した内容で、自然を楽しむ事が出来ました。
- ・夜空の星を見られたのが、普段は出来ない分良い体験でした。
- ・TV、スマホが無くて良い時間を過ごせた。
- ・初めてのテント泊、いい経験になりました。

(3) 成果

- ・アンケートに記載があるように、大自然の中でのさまざまな活動を通して施設の理解と家庭教育支援ができた。
- ・当施設の利用団体によるステージイベントは、演技する方も見る方もアットホームな雰囲気の中で温かく、また迫力がある内容で実施することができた。

(4) 課題

- ・昨年までのチラシ広報先(栗原、登米、大崎、の小学校)には経費削減のため、ポスターによる周知だけとしたが、参加者を集めるまでに至らなかった。次年度は生徒分のチラシをモノクロで印刷するなど、経費を抑えつつ参加者を確保する。
- ・今年度はプレイホールにドームテントを設営したため、夜のプログラムで体を動かすプログラムが出来なかった。次年度は設営場所も含めて再検討し、体を動かすプログラムも取り入れる。
- ・全員が参加できるイベントが無かったので、次年度は「花山クイズ大会」や「じゃんけん大会」など、景品を用意して小さなお子さんから大人まで一緒に楽しめるイベントを検討する。